



創世記2-3章 神の子への相続

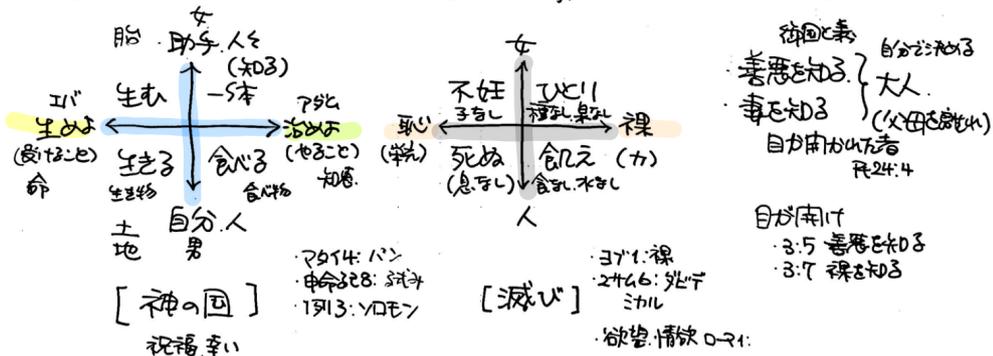
神の子への相続ストーリー

2018.10.26

(父母を離れ、結婚)

目的: 神の子に人をつくる - 生めよ、治めよ (相続人)

- 3日目: 食物、5日目: 6日目: 生き物に食物
- 園に: 善悪知命、アダムに助手(女) 骨肉 (おかし) "命"、一体



創世記1章から4章まで、1章から2章3節、それと4節からのところに「神の子、神様のかたちに人を造って、人を祝福しました。」という箇所です。その箇所は、創造のストーリーと言うのですが、創造のストーリーとは何なんだろうということです。

目的は我々のかたちに人を造るなのですが、我々のかたちと言っているのは、相続人、神の子である相続人を造るということです。神様は生めよ増えよ地を治めているという生きている神様で全てを支配している神様だということを、人があらわしているということを聖書の最初で話すわけです。

特に、その創造の中でも、エデンの園の中で、大切なのが、食べ物を与えられていることと、妻を与えられることです。この2つが中心になっている感じです。そのストーリーをよく見て、分けて、神様は何を求めておられたのか、その命令を信じないで、祝福を台無しにしてしまったということは、どういうことなのかということを見ました。

人がなすべきことということと、やることと、受けることということ、知ることと、生きることというように分けています。人は物を食べて生きています。人は女を知ると子を産みます…ということで、生めよ増えよのエバ、生きるものの母であるエバがこちら側(左)にいて、なすべきことと、治めること、知ること、食べないで知ることということが、アダム(右)側に出ています。

を求める者には、永遠のいのちを与えると書いてある通りに、忍耐して主を信じて善を行うなら命が与えられると書いてあるとおりですね。

コロサイ3章5節「地上のからだの諸部分、すなわち不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そして、むさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりがそのまま偶像礼拝である。」エペソ5章5節にも同じような箇所があります。「不品行な者、汚れた者、むさぼる者、これが偶像礼拝者である。」こういう者に従わないで、愚かにならないで、主を恐れて感謝しなさい。」とされている。そういうところに、本来アダムが何をすべきだったのか。この相続のストーリーの最初に「主を恐れること、主を知ること」を教えて、それによって生きるのだ、平和が与えられる、シャロームが与えられるということが、手紙の中でも教えられているということです。

ここに書いてあるのは、不品行と飲み食いと一緒に出てくる箇所はいっぱいあります。民数記25章では、「モアブの女と淫らなことをし始め、自分たちの神々に生贄を捧げたので、民は飲み食いし、娘たちの神々を拝んだ。」と全くそのまま、不品行と、むさぼりの飲み食いと、偶像礼拝というストーリーは、他にもたくさん出てきます。

箴言1章から9章のところでは、知恵のある女と誘惑する女が出てきます。その中で、食べ物のお話がいっぱい出てきます。悪い女は口に甘い蜜のようなものをくれる話とか、出てきます。反対に清い関係については、雅歌で教えられます。

食べる食べない話と、本来の知ることができる関係が限定している話はレビ記にあります。どちらも食べる話と、不品行を避ける話は、清い話、汚れるなという話で、レビ記に両方教えとして出てきます。

このものをやらなかった、逆らったという滅びを招いたほうに、裸と恥、食べるものが無い、飲むものが無い、飢えると息がなくて死にます。裸である。1人である。種が無い(男性側)。泉が無い(女性側)。1人だったら子供は生まれません。不妊の女は恥とされています。恥と戦わなくてはいけないのですけれど、不妊というのは恥だ、子を生まないということで、反対側のところがここに表れている。その反対側の、裸、恥を恐れない、神様を恐れているので、裸であることを認めている。

これは、ヨブ記1章です。裸で生まれたのだから裸、土に帰るといことは何ら恥ずかしいことはないと言う主を恐れるヨブ。主を恐れるダビデは、契約の箱の前で裸のようになって踊っていると言われて、言ったミカルは、第2サムエル6章のときの最後に、ミカルには子どもがなかったと言われていました。

目が開かれる話も民数記にあつて、これは、大人になるという話です。善悪を知るといのは、自分で決めるということですが、父と母を離れて大人になる。大人になるということは善悪を知っている。神様の御心を知っている。それで、妻を知る。これが、大人になるということ。1人であるのは良くないということです。助け手を与えて、大人になるということが生きる、生むという祝福を受ける大人の働きをする者たちに与えられているものということで、われわれのかたちに相続人を造るというストーリーをそのように、2つの木、「善悪の知識の木」と「いのちの木」の関係で見ると良いのだと思います。